



発行人 藤井 信吾

◆発行 取手新時代をひらく会  
◆発行責任者 池田 徳光

◆URL http://www.fujii-shingo.com E-mail:hirakukaishingo@ybb.ne.jp  
◆事務所 〒302-0004 取手市取手2-14-24 竹内ビル2階 TEL&FAX:0297-72-5616

## 三選を果たして

## 取手市のこれからを

## どうひらくか

取手市長 藤井 信吾

### 三選目となる選挙を終えて

市民の皆様方のご信任を得て、引き続き取手市政の舵取りを担わせていただくこととなりました。取手新時代をひらく会会員の皆様、後援会の皆様より、このたびの選挙におきまして力強いご支持、ご声援を賜りました。心より感謝申し上げます。

さて、選挙結果につきましては、「確かな施策を一貫して実現して欲しい、後ずさりではなく力を合わせて前進する時だ」という市民の皆様の冷静沈着なご判断であると厳粛に受け止めております。市制施行45周年の節目となる本年を新たな取手のステージを切り開く転換の年と位置付け、市民の皆様と心を合わせて、幸福感が隅々まで届く市政を目指し、全力で取り組んでまいります。

### 交通利便性はもろろん

### 「暮らしの場」の納得感・充実感を高めます

平成27年3月14日から、上野東京ラインが開通して常磐線が東京・品川駅に直結しました。これにより取手発の快速電車、日中の土浦方面からの中距離電車も含めて、東京が近くなりました。最短の電車で、取手東京間が39分(藤代東京間が44分)、取手品川間が48分(藤代品川間が53分)です。私自身、羽田空港や東海道新幹線を利用するたびに、その絶大な時短効果を実感しています。これは、「取手からはどこへ行くにも便利」という起点として(←からの)の利便性が向上したということであり、つくばエクスプレス開業以降、長らく転出者が転入者を上回ってきたことを考えるなら、極めて大きな都市としてのメリットの創出と言えます。ちなみに、取手市は、平成23年度においては、人口の社会的増減(転入者から転出者を引いた人数)がマイナス(693名)という状況でしたが、平成26年にはプラス(104名)に転じました。

平成27年4月から、ゆめみ野地区の区画整理地が換地処分を終えて宅地とされたこと、食品スーパーのカスマが12月に同地区内に新店することなどから、更なる転入者と住宅販売の加速が予想されます。新たに取手を選び転入する世帯や取手市に戻ってくる世帯への支援策とも合わせて、首都圏(全国にも)に効果的な情報発信を行い、社会的人口増加の流れが持続するよう取り組んでまいります。しかし、交通利便性向上や転入時の経済的支援策といった次

元に留まらない、「心の充足」といった面での、取手の良さを伝えていきたいと私は思うのです。取手に来て気付いていたかどうか、取手の中で暮らしながら感じる充足感を確実に高めていくことが、取手市民の長期的な幸せを実現する根源的なキモであると考えております。先の選挙に先立ち、事実上の政策集として全戸配布させていただいた二つ折パンフレット(星空の中を活力創造号と健康協働号が探検する図柄のもの)の裏面にプータンの国民総幸福度とされる9つの項目をひまわりの花になぞらえ記載しました。

「取手に来て、取手にいての納得感、充足感」の高揚には、花びらに書かれている項目の一つひとつに、一人ひとりの市民が向き合い、良い成果を出していくことが必要であると思います。下図のひまわりを、もう一度よく見つけてください。9枚の花びらには、一人でもできることもあれば、周囲を巻き込まなくてはならないこともあります。市民の皆様の積極的な参画がなくては成りえない項目もあり、行政の強い関与や財政出動を要する項目もあります。みんなで大いに思いをめぐらし、誰もが納得する取手発の最大幸福度の実現を目指していきたいと存じます。

### 老若男女各層から

### 「取手づくり」サポーターを集めます

本年5月、キリンビールが全国9工場の風土や食材に見合う地域限定の一番搾りビールを各工場の名前をラベルの中央に付けて売り出しました。一番搾り「取手づくり」がとりわけ大人気となっています。私自身の率直な実感としては、さわやかな柑橘系の香りで、何杯も飲んでしまいます。今年、取手市の市制施行、キリンビール取手工場開設から、ともに45周年ですが、ラベル中央に「取手」と付いた最高の特産品が飲食店や酒屋、量販店で求められることがうれしく胸を張って自慢してまいります。この夏は、一番搾り「取手づくり」を大いに愛飲していただきたいと存じます。

さて、図中のひまわりに「コミュニティの活性度」と名付けた花びらがあります。人々が、信頼や思いやりを持って地域活動に協動的に参画している地域は、犯罪も少なく暮らしやすいことがある程度実証されています。そのコミュニティ活動のネットワークを、学者はソーシャルキャピタル(社会関係資本、あるいは人間関係資本、または市民社会資本と訳される)と呼んでいます。取手市においても、防犯、防災、青少年教育、環境保全、その他あらゆる分野でコミュニティの活性化のために、たくさんの方が汗を流して下さっています。地域住民を支えて、見守る地域住民の重層的な体制が毎日の暮らしの住み心地や安心感そのものに直結していると断言することができます。

そこで、取手のソーシャルキャピタルをより堅固なものにしていくことが最重要課題であり、そのために、「取手づくり」サポーターを集めていきたいと思っています。多くのグループで担い手の高齢化が目立つようになってきていますが、地道な人探しと説得で、この取手を支える担い手を若年層も含め結集することが大事なことを考えております。中・長期的な視点にたつて、「人探し」と「人の育成」を行政と住民の協力でやっていきたいと思っております。

## レガシー(遺産)と言えものをひらく

私たちは前の時代の人が残した数々の遺産の恩恵を受けて日々の暮らしを営んでいます。とりわけお城やお堀など封建時代には軍事目的であった建造物が数百年のうちに観光資源となっていたり、住民が毎朝ラジオ体操や健康ウォーキングをしたりする格好の舞台になっているわけです。

私は、レガシー(遺産)を残すという気持ちがあれば、30年くらいのスパンで完成させる手作り植樹による公園といったことも手掛けられると思います。また、地区単位で、行政は材料と機材を提供して、住民の皆さんの参画で遊歩道を作り上げるといったことで身近なところに市民共有の愛着ある空間を残すことができます。そして、時間をかけて作りこむ過程そのものが地域コミュニティの活性化をもたらします。新しいのどこか懐かしい未来の景観を想像しながら、取手らしいレガシー(遺産)を作っていきたいと思っております。

### 市民の皆さまが大切にしたいと思っている幸福度をはかる9項目です



本図はプータンのGNH(国民総幸福度)を一部改編して掲載。

## 市長選を振り返って

取手新時代をひらく会

代表代行兼藤井しんご後援会会長 寺田 治

この度の市長選挙(平成27年4月26日投票)では、藤井しんご後援会の皆様、レディス藤の会の皆様、取手新時代をひらく会の皆様など多数の方々の献身的なご尽力のお陰で、藤井しんごが圧倒的な勝利を収め、三期目の市政を引き続き担当することになりました。衷心より感謝申し上げます。

さて選挙戦を振り返ってみますと、まず投票結果は、全体の投票率が41・6%(前回49・5%)で、藤井しんごは有効投票数の約6割弱(2万1150票)の支持票を頂き、三期目の市



大勢の支援者の前で挙行された出陣式(公示日4月19日)

政を担わせて頂くことになりました。残りの4割強が他候補二人の総獲得票数でした。投票率だけ見ると、残念ながら有権者の半数以上の方々が投票所に足を運んで下さらなかったということになります。低投票率についてはマスコミをはじめ多くの専門家が分析を試みていますが、取手市も他市と同様に、例外とはなり得なかつたわけですね。但し「この町を少しでも住み良くしたい」という強い意志を持った有権者の約42%が投票所に足を運び、その内の約60%の市民が「藤井市政」を信任したという事実には重たいものがあると思います。

藤井しんごは選挙戦で、これまで積み上げた市政の実績とこれからの展望・目標を明確に提言しました。対立候補の主張は、批判に終始していたり、あるいはそれなりの「政策」を持ち込んでいたもの、訴えるものが少なかったように見えました。有権者の皆様は、各候補者(元市議・元県議)の当時の主張や市政への関与のありようなどから、市長という立場にあつては適確な職務執行が可能かという見方で、評価をしたのではないかと感じています。具体的な政策での競い合いにならなかつたという意味では市民の一人として甚だ残念だったと申し上げたい。若人をはじめ各世代の有権者の皆様に政治への関心をしっかりと持って頂くためには、「政策で競う」という本来の選挙を実現したいものです。

これからの藤井市政は「市民の生活の質の向上」を目指して邁進し、「行政と市民の協働」を大きな推進力として更に前進するものと思います。多くの市民の皆様が感じておられるように、市役所も生まれ変わって来ました。市政にはまだ改善・改革を要する課題はありますが、市民と市職員との信頼関係を一層強くし、加速しつつある「少子・高齢化社会」への対応をスムーズに具現化して行くことを期待しましょう。

末筆ながらご支援いただいた皆様方に再度感謝申し上げます。有難うございました。

## 素顔 藤井市長の青年期

守谷市百合ヶ丘 佐藤 功

藤井市長の三選を心より喜び申し上げます。できれば一度、市長の青年期の姿を皆様にご紹介したいと考えておりました。このたび機会を得ましたので、あれこれ書き連ねて寄稿しました。藤井さんと私は一時期同じ保険会社の支社に勤務しておりました。とはいえ、干支が一回り私が上でしたので、私の目からは新卒入社した藤井さんはまさに「紅顔の美少年」でした。私は営業職、藤井さんは事務職でしたから営業部内の各支社を回り、書類の配布と回収に飛び回っていました。

保険会社は、外見こそ派手なのですが、実体はいたって質素で、テナントを入れない、自社のみが使用するビルは照明も暗く、空調も貧弱で、エレベーターも少ない状態でした。私達の支社ビルも同様で、他に6支社が入っていてもエレベーターは1基だけでした。当然、いつも満員となるために藤井さんは1階から8階まで階段を上り下りする毎日で、とにかく誰もが認める「働き者」でした。

そんな藤井さんが市長選にでることを知ってからは、毎回選挙戦のお手伝いをしてきました。街宣の移動中では人もだまりがあれば、素早く降車して握手してまわる小まめな動作は、かつて社内を走り回っていた新入社員時代の「初心」そのものでした。同じ職場での仕事は3年間でしたが、仕事にも慣れて余裕ができたのか、2年目頃からは早く出社して、仕事前に会議室で習い始めたアコーディオンの練習を熱心に行っていました。

ところが、入社3年目の夏に、日本中を震撼させる事件が起きました。その日は、旧盆3日間の夏期休業の前日ということから早退して家族で帰省する人もいました。私達は仕事を切り上げて夕方から納会を始まりました。事務所に電話を入れて誘うと、気さくな藤井さんはすぐ来てくれ、テレビを見ながら談笑していました。その時、テレビ画面に、日航機が消息不明の臨時ニュースが流れました。藤井さんと私は同時に「エッ?」と声をあげて顔を見合わせたまま数秒間、絶句の状態でした。この間、私の頭の中はつい数時間前に別れて帰宅した同僚、友人・知人がもしやこの飛行機に乗っていたのではとの不安に襲われました。藤井さんも同じ気持ちであったと思います。

これが昭和60年8月12日に羽田を飛び立った日航ジャンボ機が御巣鷹山に墜落して520名の犠牲者を出した事故です。不思議なことに、藤井さんと顔を見合わせ絶句した数秒間とその表情を、つい昨日のように憶えています。今年には事故から30回忌の年、藤井さんとの出会いも30年前であったことを思うと、まさに「光陰矢の如し」を実感すると共に、市長選が再会の機会となるのは本当に奇遇でした。

知 得 情報

取手版「地方創生」について聞く

プレミアム付商品券も関係ありますか?

私たちの日常の会話は、テレビ等のホットな情報から幕があきます。今の関心事はプレミアム付商品券で、取手市は終了しましたが、つくば市は7月から募集するようです。国の地方版総合戦略・緊急的取組の地域消費喚起・生活支援型のメニューに「プレミアム付商品券」の発行があり、取手市の発行も地方創生の一環事業であることが解りました。そこで、この他の施策について政策推進課にお聞きしました。

**Q 国主導の「地方創生」は自治体間の競争、競争を強いることになりませんか**

**A** 地方創生とは、地域経済の活性化、地方への移住促進、少子化対策を主な柱として、その実現のために国・県・市町村がしっかりとタッグを組み、さらには産業界・大学・金融機関・労働団体・言論界とも連携して、各自治体の状況や特性に合った施策を、自治体独自のアイディアで推し進めようというものです。

このような自治体の取り組みを国が積極的に支援し、地方を元気にしようという意図が込められています。これは地方にとっては、チャンスであると同時に地域間・地方間の競争を強いられる状況とみることもできます。

**Q 取手版「地方創生」の優位性を教えてください**

**A** 国が推進する地方創生に基づいて、市がどのような戦略を持って、地域間競争をしながら人口減少対策に臨むのかを示すのが「取手市版総合戦略」の理念です。取手市は、都心から40キロ圏内にある通勤・通学の便が良いという特性があり、職を変えることがなく、都心や周辺部からの住み替えが可能です。一方で、今回の地方創生における「東京圏」とは東京・神奈川・千葉・埼玉を指しており、人口移動政策上、取手市は「地方」に位置付けられています。つまり、取手市は東京圏に最も近い地方であるという優位性を持つことになり。

この優位性に加え、取手に来ていただいた方の満足感の充実や、納得感、幸福感の向上を掲げています。藤井市長が就任以来、まちづくり、ひとづくり、健康づくり、環境づくりを市民協働で推進してきており、取手市の要介護認定率は全国平均を大きく下回るなど、これらの成果が顕在化してきております。今年の10月には取手駅前がウェルネスプラザがオープンし、市民

あけての科学的健康づくりが本格化しますので、もつとその良さを実感していただけたらと思います。

**Q 「取手市版総合戦略」に盛り込まれている具体策を教えてください**

**A** この総合戦略に取手版「地方創生」の諸施策が盛り込まれます。詳細な内容については現在検討中です。藤井市長が表明している①若者世代の定住化に向けた転入者の住宅取得に対する資金支援②親子2世代が同居するための住宅改修(リフォーム)への助成③市民生活支援事業などを中心に、市内で起業を希望する方へのノウハウや運営費の補助④総合的なシティプロモーション展開への技術的支援等が盛り込まれる予定です。

市では、総合戦略と並行して第6次取手市総合計画の策定も進めており、中・長期的な取手ビジョンを構築することとしています。

次世代により良い取手市のレガシーを引き継ぐために、行政だけではなく、市民、団体・企業とも一体となつて協働のまちづくりを進めるエネルギーこそが地方創生の鍵となります。

**しんご通信購読者募集中**

取手新時代をひらく会では、「しんご通信」を発行して購読者にお届けしています。年会費は1000円です(発行3回/年)。

購読費振替先  
郵便振替口座加入者名「取手新時代をひらく会」  
口座記号番号 00190-5-280778

**「レディス 藤の会」 入会募集中**

この会は「取手新時代をひらく会」の女性会員で作る「藤井しんご支援者グループ」です。藤井の市長から活動報告を聞いたり、親睦を深める(留守活動)をしています。詳しくはしんご事務所(留守電、ファクス)かメールで確認ください。

例年ならば、本号は6月発行で「支援者の集い」にご参加の皆様には、会場で本紙を差し上げておりました。今年は4月選挙と相まって、1か月遅れとなりましたことをご詫言いたします。巻頭言で述べている市長の三期目の意気込みから、取手版「地方創生」の施策においても、他県や他市をリードしてくれるエネルギーが感じられます。その意味でも、市長の発言を活字で残すことは大事であると考えています。

(編集長 井上君夫)

編集後記